

サント

低品位回収事業に本格参入 ルテニウム

白金族リサイクルを拡充

レアメタル商社のサント（本社＝東京都江東区）はこのほど、低品位のルテニウム回収事業に本格参入した。ルテニウムを使う電子材料や触媒などのスクラップを国内で集

荷し海外の提携先企業で金属分を回収・精製する事業を委託加工として行う。すでに事業化しているパラジウムとイリジウムを加えて白金族リサイクル事業を拡充。各種レアメタ

ルリサイクルや銅系スクラップの規成事業と並み収益の柱にする。ルテニウムはハードディスク駆動装置（HDD）などに使うスパッタリングターゲット材や、石油化学プラント

で水を蒸気製造する際の水電解触媒などに使われている。水電解触媒には同じ白金族元素のロジウムを使う場合が多い。しかしロジウム価格が高騰しているため、代替として安価

なルテニウムの使用例が増えている。

サントはスパッタリングターゲットの端材や触媒スクラップ、ペーパーストックのスクラップといったルテニウムを含む低品位のリサイクル原料を集荷。静岡県浜松市にあるグループ会社の工場でも処理し

てから、海外の提携先企業で金属分を回収して精製する。特に低品位ルテニウムに強みがある。海外で再精製したルテニウムは国内の

原料発生先に戻す受託加工事業として行っている。コスト面でも国際的なルテニウムリサイクルコストで国内にサービスを提供する方針だ。

ルテニウムの世界需要は年間30ト程度だが、今後スパッタリングターゲットや水電解触媒向けの需要増加が期待される。ただし白金やパラジウムの副産物（バイプロ）として生産されるため一次資源の供給には制約がある。

サントはレアメタルやアミノ酸を中心とする金属・化学品商社。グループ会社の工場では超硬工具の製造工程で発生するタンゲステスラッジやタンタルスラッジ、コバルトスラッジ、銅系スクラップなどを焼成し金属品位を高める受託加工を行っている。白金族リサイクルと同じビジネス

も、一方のリサイクルについては供給能力に制限はないとサントは説明する。

サントはレアメタルやアミノ酸を中心とする金属・化学品商社。グループ会社の工場では超硬工具の製造工程で発生するタンゲステスラッジやタンタルスラッジ、コバルトスラッジ、銅系スクラップなどを焼成し金属品位を高める受託加工を行っている。白金族リサイクルと同じビジネス

も、一方のリサイクルについては供給能力に制限はないとサントは説明する。

モデルで安定した収益を上げる。正確な分野データを受託加工先

へ提供した適正評価で顧客のニーズを取り込んでいく。

日刊産業新聞
2021年3月19日
第20159号